

1 趣 旨	近年、地震災害や台風・大雨による洪水・土砂災害など、予期せぬ大きな被害が起こり、地域住民の物的・精神的被害が大きく、その後の生活にも困難をきたしている現状が見られる。そこで、自らの体験を生かしながら身近なものを使って「衣・食・住」を確保し、周囲にも支援・助言できるような知識・技能・意識を身に付けた子どもを育成するために、地域で子どもの指導に関わる人々を対象に本研修会を行う。緊急時に「衣・食・住」を確保したり、工夫を加えて生活をより豊かにしたりするコツを学ぶことができるようにする。そして地域での子どもの体験活動の企画・立案に生かし、豊かなつながりのある安全・安心な地域づくりの一助とする。
2 対象者	各市町地域活動指導員、各市町子ども会育成会関係者、子どもの居場所づくり関係者、子どもの体験活動に関わりのある・関わりたい方（6名）
3 期 日	平成29年11月4日（土）
4 場 所	筑後市中央公民館（3階：軽運動室・視聴覚室）
5 内 容	【講話】「生き抜く力を身につけ、地域で貢献する子どもの可能性」 【体験活動Ⅰ】「身の回りのものやちょっとした技能で快適生活に大変身！」 【体験活動Ⅱ】「いつでも、どこでも簡単に居場所づくり」 福岡県立少年自然の家「玄海の家」 社会教育主事 大賀 雄史

6 評 価

(1) アンケートから

評価項目		4	3	2	1	平均
講話	本日の内容は、今後の活動等に参考になりましたか。	6	0	0	0	4.0
体験活動ⅠⅡ		6	0	0	0	4.0

◆講話・体験活動の感想等について

- ダンボールシェルター作りは、子どもも大人も役立つものでした。
- 先生の千葉での体験、福岡との違い。とても興味深かったです。
- 身近にあるもので、簡単かつ実用的なものが作れたことに感心しました。他にも何か作れるものがないか調べてみたいです。
- 「何のためにやるのか。」を考えながら、次年度のキャンプは進めていきたいと思います。
- 流木を拾ってきてのキャンプファイヤーなど、準備から子供達が楽しめると思うので、やってみようと思いました。
- キャンプでかっぱを持って来なくても、自分で作る活動を入れるプログラムも楽しいと思った。

◆自由感想や次回への要望について

- 防災の視点で事業を考えてみたいと思います。
- 簡単に出来る防災グッズとして、使えるという点では優れたものだと感じました。
- 土日は、講座などで参加できない方が多いので、平日に開催してほしい。特に11月はイベント等が多いので参加が厳しいのでは。

(2) 成果と課題

- アンケートの結果から、全員が「大変参考になった」と答えており、緊急時に「衣・食・住」を確保したり、工夫を加えて生活をより豊かにしたりするコツなどの情報を提供することができた。
- 体験活動において、身近なものを使ったり、簡単な工夫をしたりした活動であったことは、災害時の状況を想定した内容となり、「これなら出来そうだ。」という実感を参加者に持っていただくことができたと考える。
- 研修会の内容・講師については、アンケート結果からも課題がなかったと思うが、参加者が6名と非常に少なかった。対象が主に子どもの体験活動等を指導される方（地域活動指導員、子ども会育成会）であることから、各市町行事等を把握して、開催時期を決定する必要があった。

